

模写するかコピーを貼ろう

「民衆を導く自由(の女神)」(ドラクロワ、制作も1830年)

7月27～29日の市街戦を描いたのが、有名な「民衆を導く自由(の女神)」(ドラクロワ、制作も1830年)である。

ドラクロワはロマン派の画家。左から2人目、シルクハットの男は作者自身だと伝えられる(未確認)。

描かれている女神はフランス共和国を象徴する女性「マリアンヌ」。《胸がはだけるのもかまわず三色旗を振りかざす姿は、パリ民衆の迸る革命のエネルギーを表現している》と解説されることが多い。

「自由(の女神)」が右手に持って高く差し上げているのはトリコロール(3色)の三色旗。1789年の革命の際に国民軍が使用した旗で、革命後に正式に国旗として制定された。当初、この国旗は左から赤・白・青の順番だったが、1794年に改定され、左から青・白・赤となり現在に至っている。この絵画では赤・白・青の旧順番のように見えるが描かれたシーンは1830年なので、そんなはずはない。旗が翻り、「裏側」が見えているのだ。なお、一般に旗というものは掲揚索に取りつける側(掲揚ポール側)を左にして置いた面が「表」である。

4) 反動王政は倒されたが、新しい政府の政体について立憲君主派と共和派が対立した。

復古王政

結局、自由主義者とされていたオルレアン家(公)の【4: 】位1830-48 が即位し、【5: 】1830-48 が成立した。七月革命の結末は七月王政である。

七月王政

1848年にもパリの民衆は蜂起し、この七月王政を倒している(それが二月革命)。

ルイ=フィリップ: オルレアン公はブルボン家傍系で非常に格式が高く王室との関わりも密接。彼は、ジャコバン派所属の経歴を持ち自由主義に理解がある、11Wと見なされ、フランス軍の軍歴もある。経歴を詳細にみると自由主義者とは言えない面を持つが、王権神授説を放棄し、「フランス国民の王」と称した(後に反動化した)。

5) 七月王政とは何だったか 制限選挙に基づく立憲王政

ルイ=フィリップは、ラ=ファイエットら自由主義者や大資本家、銀行家をはじめとするブルジョワジーに擁立され即位した。絶対王政を否定して立憲君主制が採られ、責任内閣制を導入してアドルフ=ティエールやギゾーらを首相に登用し、さらに国内の安定と繁栄をはかるために経済の奨励を行ってフランスに産業革命をもたらした。少数の銀行家、大ブルジョワジーの利益を中心に政治が進められ、民衆を失望させた。『レ・ミゼラブル』(ヴィクトル=ユゴー、1862)は、1815年～1833年の産業革命期のフランスを舞台とする大河小説(近年、映画化、ミュージカル化された)。政治体制は再び非宗教化し、国民主権が認められ、選挙法の改正が行われた。選挙権の資格条件となる納税額が引き下げられ11W、有権者は約9万人から16.6万人に増えたがそれでも全人口の1%にも満たなかった。いぜんとして納税額による制限選挙だったため、議員の多くは地主や資本家だった。産業革命の結果、激増した中小資本家や労働者は選挙法改正を要求した。(1840年代、ギゾーがこの運動を弾圧し続け、1848年の二月革命を招いた。後述)

II 七月革命はヨーロッパ各地に波及した! ベルギー独立、ワルシャワ革命など

1) 【6: 】独立

《それ以前の経緯》南ネーデルラントはカトリックの市民が多く、オランダ独立戦争から離脱してスペインの支配に留まった。スペイン継承戦争の結果(1713)、オーストリアが獲得したが、フランス革命戦争でフランス軍に占領され(1793)、カンポ・フォルミオの和約によってフランスに併合された。ウィーン議定書(1815)でオランダ連合王国に編入さる。ベルギーは結局オランダから独立した。スペインからでもオーストリアからでもない。プロテスタントであるオランダ人の支配を嫌い、1830年7月、ブリュッセルで武装蜂起、独立革命が起きた。翌1831年イギリスなどの承認により、ドイツの小領邦君主の一族であるレオポルトを立憲君主として迎えた。これがベルギー王国の起源である。1839年、オランダはベルギーの独立を承認、ルクセンブルク大公国の領土から西半分(現在のリュクサンブール州)をベルギーに割譲した。

2) 【7: 】蜂起 「ポーランド騒乱」「ワルシャワ革命」とも記す。

《それ以前の経緯》分割で消滅していたポーランドは、ウィーン議定書により、ワルシャワ大公国の大部分をもってポーランド王国を形成した(1815)が、ロシア皇帝がポーランド王を兼ね、事実上ロシア帝国領だった。1830年11月、ポーランドのシュラフタ(士族・領主)がロシア帝国の支配からの離脱を求めて反乱を起こした(～1831)。ロシア皇帝ニコライ1世は、翌1831年9月、ロシア軍を投入、ワルシャワを占領し、鎮圧した。

練習曲第12番 ハ短調 『革命』を聴いてみよう。弾ける人もいいるだろう。youtubeで「ショパン 革命」で検索して試聴しよう。

「ピアノの詩人」と呼ばれたロマン派の作曲家で演奏家のショパンはポーランド人である。演奏旅行中に革命が起きた。1831年、ウィーンからパリへ移動中、シュトゥットガルトで、《革命が失敗し、故郷のワルシャワがロシア軍の手に落ちた》との報をきいて作曲したものといわれている。腕力は弱く、革命戦争の役には立たないと自覚する自分に「革命は俺たちに任せて音楽に専念しろ」と書き送ってきた父、おそらくはバリケードの中にいたと思われる親しい友人たちは、どうなっただろう。激しい怒りと混乱が繊細な彼の心をかき乱した。この時期のショパンの精神状態が普通でなかったことは彼の日記からもうかがえる。左手の急速な動きは間隔の広狭が次々と変化する。『革命』というタイトルはリストが付けた。

3) イタリア蜂起 1830～1831年、中部イタリアでは、カルボナリが蜂起したがオーストリア軍に鎮圧され失敗。これをイタリア反乱ともいう。この失敗で、カルボナリは衰退、後掲の青年イタリアに役割を譲った。

《それ以前の経緯》1820年、ナポリで、1821年、ピエモンテで革命運動を起こしたがオーストリア軍に弾圧された。

1831年、イタリアでは、カルボナリの志を継承し、【8: 】1805-72 が、共和政による統一をめざして運動する【9: 】を結成した。蜂起を繰り返したが、1848年に実質消滅。

4) ドイツ蜂起 1830年、ドイツ各地で反乱が起きた。ザクセン、ヘッセン等では憲法が制定された。

☆ウィーン体制期(1815-1848)に起きた出来事とそうでないものを区別させる問題は頻出。例えばフェビアン協会の結成は1884年。